

# 部活経験 生きている

## ハピネット・長谷川選手 JR秋田・斉藤選手

秋田シーサンハピネットの長谷川選手(24)と、JR東日本秋田バスケットボール部ベッカースの斉藤大輔選手(23)が18日、秋田北上羊の遊楽亭で開かれた「スポーツ・部活動から学ぶこと」と題するトークイベントで自身の部活動体験を語った。市内の小中学生約30人が耳を傾けた。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

2人は能代工業高校(現能代科学技術高校)出身で、学年が1違い。埼玉県出身の長谷川選手、大仙市出身の斉藤選手は高校時代、ともに地元を離れ、能代バスセンターの寮生活を送った。

高校時代に主将を務めた長谷川選手は「チームをまとめるために、試合でないところでも見本となるようにして、たとえ振り返り、「部活ではあいつ、集合時間を守るなど社会人になっても大事なこ

## 秋田市遊学舎 トークイベント 能代工高時代振り返る

とを教わった」と、部活での学びが今も生きていて語った。

斉藤選手は、部員60人の中から試合に出られるようになるために、「二つこみを拾ったら、リバウンドを上手に取る」というように、日常生活の行いが部活での経験につながることをイメージして日々を送ったと語った。試合に出る際には「二二チームをやる」ことができず、選手もいる中、「恥ずかしいプレーはできない」と自分を奮い立たせたことも口にした。

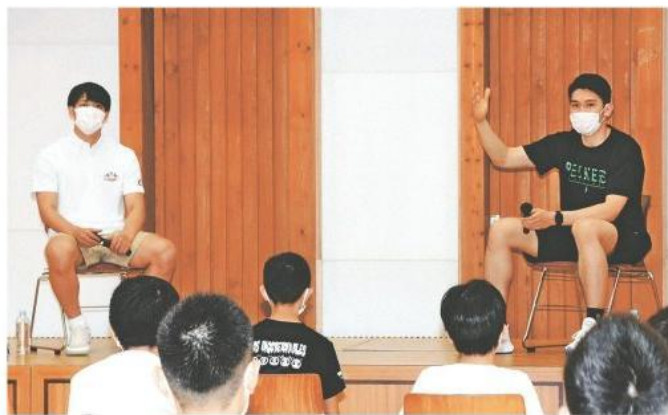
部活の仲間や同年代のバスケット選手について、長谷川選手は「みんな仲が良い。今でも悩んだり困ったりしたときは相談する」ともあつた。斉藤選手は「部活の同期が活躍している姿を見て、自分も負けていられない」と刺激になると話し、仲間の大切さを

語った。

参加した勝平小3年の根優乃介君は「バスケットがうまくなるようにいっぱい練習して、4年生になったら部活に入りたい」と話した。

トークイベントは、秋田市母子寡婦福祉連合会が主催した。

(富樫幸恵)



高校時代の部活動について語る長谷川選手(左)と斉藤選手